

事業名称	「スマホとコラボした「飾磨まち歩きマップ」製作・配布拡大事業」
団体名・代表者	飾磨ひろめ隊 隊長 下津 千修
協働の相手方	観光コンベンション室

目的	歴史・文化にあふれた飾磨の「まち歩きマップ」を作成し、デジタルスタンプラリーの仕掛けで、飾磨に人流を呼び込む事業。姫路観光コンベンション室と協働して、姫路の観光拠点にマップを配架してもらい、その流れを大きなものにしていく。
内容	飾磨の歴史を解り易く伝えるために、クリアファイルに「江戸時代」「大正時代」の海岸線を描き、現在の地図にそれをフィルターのようにあてがうことで、両時代の飾磨を想起し易くした。またデジタルスタンプラリーをマップに落とし込み、二次元コード POP を飾磨見どころ 10 か所に設置し、町歩きの興味を増すようにした。
事業経過	マップ完成後、コンベンション室に姫路観光拠点に配架してもらった。（書写山ロープウェー乗り場、姫路観光ナビポート、姫路みなとミュージアム）同時に各イベント（11 月「飾磨ひろめ隊イベント」 1 月「日本遺産 PR イベント」 3 月「飾磨町家の日イベント」）で配布し、飾磨情報の発信ができた。
事業の効果	○「飾磨まち歩きマップ」配架、イベント配布後、飾磨まち歩きの人及びまち歩きの問い合わせが増えた。（CSV データー等） ○協働先の姫路観光コンベンション室だけでなく、港関係の「産業振興課」「姫路市ひめじ創生戦略室」との連携も取れた。 ○飾磨の有志からマップ評価をいただき、事業とは別に、スタンプラリー無しの「飾磨まち歩きマップ」を製作することができた。 ○飾磨まち歩き拠点 10 か所の二次元コード POP 設置にあたり、多くの方を接し、飾磨に対する「飾磨ひろめ隊」取り組みを評価いただいた。 ○飾磨ひろめ隊の名が広まった。
今後の展望	○飾磨への人流の呼び込みは、事業終了後も「ノーマル飾磨まち歩きマップ」を各イベントにて配布し、発信を継続していく。 ○日本遺産の連絡先（マップ完成時に、配布）との交流をさらに深め、互いの地区活性化に情報交換を密にしていく。（銀の馬車道（生野・船津）、北前船（坂越・室津・高砂・兵庫））

【実施団体の事業総括・感想等】

○マップ及びデジタルスタンプラリーの完成には満足している。公式 LINE 登録はイベントごとに増加、反応がうれしい。 ○思った以上に、この事業で、関わった組織、人が多く、助けていただき感謝です。 ○まだまだ飾磨の深堀が足らないと実感、継続して飾磨の魅力情報をブラッシュアップしていく決意です。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

飾磨の歴史・文化を分かりやすく可視化し、デジタル活用により周遊促進を図った点が評価できます。
海岸線の重ね表示やスタンプラリーにより来訪者の興味喚起と滞在時間の延伸に寄与したほか、関係部局との連携や観光拠点での配架により人流創出にもつながっています。
今後の継続的な情報発信による更なる誘客効果を期待しています。